

2008

12

No. 39

Miyakojima City
Public Relations

広報

みやこ
じま



みんないっしょにヒヤサツサ!

～ 第7回クイチャーフェスティバル 2008 ～

11月2日、カママ嶺公園多目的広場で「クイチャーフェスティバル 2008」が開催されました。

今年で7回目となる同フェスティバルに、今回は28団体が参加。参加者たちは、伝統的なものから創作したもの、勇壮なものや優美なものなど思い思いのクイチャーを次々と披露し、訪れた多くの観客を魅了していました。



今月の主な内容

健康都市連合国際大会

……P2

宮古島のわだい

……P6

おしらせ(第60回人権週間ほか)

……P8

■ホームページ <http://www.city.miyakojima.lg.jp/>



住民の健康を目指して 第3回健康都市連合国際大会へ参加



千葉県市川市で、「第三回健康都市連合国際大会」が十月二十四日～二十六日の日程で開催され、加盟都市や団体が「健康で安全な都市社会へ向けた取り組み強化」を基本とした「市川宣言」を世界に向けて発信しました。

大会には、世界十四カ国から百七十一団体が一堂に会し、国際レベルでの意見発表や情報交換が行われました。参加した各都市や団体は、健康都市としての保健・医療制度のほか、福祉や環境、教育など多岐にわたる課題推進のため、活発な交流を行っていました。伊志嶺亮市長は、プレゼンテーションで宮古農林高校の地下水保全の取り組みを紹介し、次の世代を担う子どもたちへの環境学習の重要性をアピール。また、市で推進しているサトウキビから作るバイオエタノール製造の紹介や、バイオマスの積極的な利用を呼びかけました。

大会は、開催期間中だけで四千人を超える参加者が集まり、フィナーレは参加者全員を巻き込んだ盛大なクイチャーで幕を閉じました。

参加数

参加国と国際機関	参加都市等		
	都市	団体	合計
日本	22	24	46
オーストラリア	2	4	6
中国	12	9	21
韓国	32	11	43
フィリピン	8	3	11
マレーシア	1	3	4
モンゴル	1	4	5
ベトナム	1		1
シンガポール		1	1
台湾		16	16
イラン		3	3
サウジアラビア		1	1
インドネシア		2	2
アメリカ		1	1
国際機関 (WHO 等)		10	10
総合計	79	92	171



健康都市連合とは

健康都市連合は、都市の住民の健康を守り、強化することを目的とした国際的なネットワークで、「健康都市アプローチ（社会的、経済的、自然科学的環境が都市に住む人の健康の鍵を握るというコンセプト）」を通じて目的を達成しようとする団体です。加盟した都市は目的達成のために、国際的な協力が効果的な手段になると信じ、健康問題に取り組む人々との相互交流を推進していきます。

日本が所属するWHO西太平洋地域事務所呼びかけで、2003年10月、マニラ市（フィリピン）で健康都市会議が開催され、この地域でも「健康都市連合」を設立し、都市間ネットワークを形成することになり、健康都市連合憲章が採択されました。そして、翌年10月、クチン市（マレーシア）で、設立総会が開催されました。

その後、2005年4月に健康都市連合に日本から加盟している4市（宮古島市・千葉縣市川市・愛知県尾張旭市・静岡県袋井市）を発起人とし、ネットワーク化による日本国内における健康都市の発展を目指した「健康都市連合日本支部」が設立されました。

現在、健康都市連合には14カ国から99都市の正会員と21団体（大学等）の準会員が登録されており、日本からは宮古島市のほか、愛知県の名古屋市・尾張旭市・大府市、静岡県袋井市、千葉市の市川市・我孫子市、流山市、岐阜県多治見市、兵庫県神戸市、神奈川県の大和市の11市が正会員として参加しています。

健康都市連合は、都市の住民の健康を守り、強化することを目的とした国際的なネットワークで、「健康都市アプローチ（社会的、経済的、自然科学的環境が都市に住む人の健康の鍵を握るというコンセプト）」を通じて目的を達成しようとする団体です。加盟した都市は目的達成のために、国際的な協力が効果的な手段になると信じ、健康問題に取り組む人々との相互交流を推進していきます。



2005年4月に宮古島市で行われた「健康都市連合日本支部」の設立首脳会議の様子

第3回健康都市連合国際大会 Photo



左上:各都市から集まった首脳 右上:大会フィナーレを飾ったクイチャー
左下:伊志嶺市長とオーストラリアからの参加者 右下:大会中の様子

健康都市連合は、発足からわずか数年で大きな団体となりましたが、宮古島市はその理念にいち早く賛同したメンバーとして、そして連合における初代理事の一人としてその発展に大きく寄与してきました。その中で、千葉県の市川市など交流が盛んになった都市も増えてきました。今回、人口数十万の都市の代表者が集まった国際大会で、宮古島市が大会成功の一翼を担ったことは意義深いものがあります。

今後も宮古島市は、市民が健康に暮らせるエコアイランドを目指して各種施策を展開していきますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

外国人の眼から見た宮古島

見た宮古島

言語も文化も全く異なる外国で育った人から、私たちの宮古島はどう見えるのでしょうか？
このコラムでは、宮古島市の国際交流員の視点から見た「宮古島」を紹介します。

— 宮古島市 国際交流員プロフィール —

David Alexander Fehrmann 11/25生 30歳
(ダビド・アレクサンダー・フェルマン) ドイツ・ベルリン出身

「宮古島の祭りとお祭りは面白い！」 ※このコラムは原文をそのまま掲載しています

今回のコラムでは宮古島で行われるまつりに関して、書きたいと思います。日本の各地域では自分にとって不思議な祭りとお祭りがあつたります。同じように、宮古島にも様々な何百年の伝統を持つまつりがあつたります。皆さんにとって、「なつまつり」、「パートゥ」、「クィチャー」などは毎年行われ、普通のイベントかもしれないですが、私の外国人の目で見たら、非常に面白いと思います。

なぜかと言うと、ドイツでの祭りはほとんどキリスト教の背景があり、標準しています。「クリスマス」の時、キリストの誕生日を祝って、「オステルン」と言う祭日にはキリストの復活祭があり、そして、収穫感謝祭の時に神様にうまく行った収穫の感謝をします。昔から多くの民族祭りは邪宗だと見られ、禁止されました。現在のドイツの各地域でほとんど同じ、キリスト教の背景があるまつりが行われています。つまり、多彩で、面白い祭りは少ないと思います。最近キリスト教は特に若者のメンバーの不足があつて、ドイツの社会はだんだん無宗教な社会となっていると思います。

それと違って、宮古島では、各地域の祭りは、大変な人気で、にぎやかに行われています。お年寄りから小さい子どもまで参加し、何百年という、伝統と文化遺産が大切にされ、行われています。その上に年代を超えて共通点が出来ています。宮古島のまつりは面白くて、魅力あるイベントではないでしょうか。「なつまつり」の縄引きでも、「クィチャー」の踊りでも、「パートゥ」に泥を付けられる事など、人気があり、楽しい祭りです。宮古島のまつりはまだ生きているし、皆さんに大切にされています。そして、宮古島の文化遺産はちゃんと次の世代に伝わっています。是非、宮古島の皆様その貴重な宝をこれからも大切にしたいと思つたります。



波の高さ 岬と湾に対する津波の伝わり方

津波の高さは地形によって大きく変化し、時には津波が陸地を駆け上がることもあつたります。岬の先端やV字型の湾の奥等の特殊な地形では、波が集中するので特に注意が必要で、また、津波は反射を繰り返す事で何度も押し寄せ、その際に複数の波が重なつて最初の波より高くなる場合もあつたります。

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じた、または津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに高い所に避難しましょう。

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起または沈降します。これにより海面が変動し、大きな波となつて四方八方に伝わるのが「津波」です。「津波の前には必ず潮が引く」と思つている人がいますが、必ずしもそうではありません。地震が発生させた断層の傾きや方向、津波の発生場所や海岸との位置関係によっては、潮が引かずに大きな津波が押し寄せられる場合もあつたります。「津波は引き潮で始まる」とは限らないのです。

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する早さで伝わりまふ。逆に、水深が浅くなるほど遅くなるため、津波が陸地に近づくと、後から来る波が前の津波に追いつき、波の高さが高くなります。ただし、水深が浅い所でも、オリンピックの短距離選手並みの早さなので、普通の人が走つて逃げられるものではありません。

防災ひとくちメモ 津波の基礎知識

宮古島地方気象台 ☎77-11011

平成20年度「からだにいい教室」 終了結果報告書

《実施期間》

平成20年8月6日～10月29日 毎週水曜(全13回)

《身体変化》

<体重> 平均 - 1.5kg (最高 - 6.2kg)

<腹囲> 平均 - 2.6cm (最高 - 8.0cm)

《意識変化》

- ・食事の量や内容に気をつけて食べていますか？
実施前：はい 8人
実施後：はい 10人
- ・外食時や食品購入時に栄養成分表示を参考にしますか？
実施前：はい 5人
実施後：はい 8人
- ・食事を選ぶときにカロリーや栄養バランスを考えますか？
実施前：はい 4人
実施後：はい 11人
- ・1日の適正な飲酒量について知っていますか？
実施前：はい 2人
実施後：はい 7人

10月29日最終確認 ※データは参加者12人より

教室実施の感想

宮古島は、日頃から飲酒の機会が多く、また車社会で歩くという習慣が身につけにくい地域だと思います。さらに今回は初めて「男性のみ」を対象としたことで、スタッフ一同不安でした。

「からだにいい教室」が始まった当初、受講生たちは日頃の運動不足からか、自分の身体をうまくコントロールできなくて悪戦苦闘していました。しかし、受講生たちの意欲は高く、回を重ねるごとに自分のからだの事に興味を持ちはじめたように感じられました。

「からだにいい教室」の実施で私たちが目指していたのは、「まず自分のからだの状態を知ってもらうこと、その上で正しい知識を身につけ、自ら健康に近づくため行動する」というものでした。今回の受講生たちは、身体の変化のみならず、健康に対する意識の変化も目に見えて確認でき、「とても勉強になった」という声が多く聞かれました。

今後は、目的の一つである「健康的な生活習慣の継続」のためスタッフによるフォローを実施していきます。教室で得た知識と意欲を薄れさせず、教室終了時に自分で立てた目標を達成できるように支援していこうと考えています。

そして、その後の受講生たちの健康的な生活習慣の継続をもって最終的な評価としたいと考えています。 担当：平良

詳しくは
健康増進課
下地保健福祉センター(☎74・7171)
(☎77・7595)
までお問い合わせ下さい。

平成20年度「からだにいい教室」 終了結果報告

宮古島市の若年男性の肥満解消の支援と、健康的な生活習慣の継続を目的に行つた平成20年度「からだにいい教室」の終了結果をお知らせします。

上野支部老人クラブ運動会

11月3日、上野小学校において第3回上野支部老人クラブ大運動会が開催されました。「創造と連帯の輪を広げて 心豊かな21世紀を」「健康・友愛・奉仕」の2つを大会のスローガンに開会式が行われ、バレーボール投げやリム回し、リレーなど多彩な競技が盛り込まれ、競技に参加したみなさんは爽やかな汗を流していました。また、上野小学校の1・2年生と5・6年生の踊りも披露され、最後は全員でクイチャーを踊り参加者のみなさんは楽しい一日を満喫し、その日の運動会は大成功に終わりました。

パワー全開！老人力！



ミヤークフツユガイナ防犯ブラフキ大会

宮古地区防犯協会が先月、防犯組織の拡充と財政基盤の強化、地域住民への防犯思想の普及高揚と地域安全活動、その他の事業拡大を図る目的で、初の「ほら吹き大会」を行いました。

防犯協会各支部から9人の弁士が出場し、方言の味を存分に醸しながら防犯パトロール中に起きた体験談や警察署員による寸劇を交え、安全・安心の街づくりを訴えました。その日、訪れた観客は弁士の表情や表現に涙を流しながら大笑いし、会場のマティダ市民劇場は笑いの渦に包まれていました。

絶妙な間で観衆の笑いを誘う！ たまらず吹き出す！笑顔・笑泣



「違いあなただが主役です！」第32回東平安名崎タートルマラソン

「違いあなただが主役です！」をテーマに今年も東平安名崎タートルマラソン（主催、宮古島市など）が行われました。

32回を迎える今大会中は、夏を思わせる日差しが照りつける中、約1500人の市民が参加して最長22.8kmから最短2kmまでの4つのコースをマイペースで楽しみながら挑戦していました。給水所では、学生らがボランティアとして活躍し、走者ひとり一人に声を掛け飲み物を手渡していました。

走者も水を掛けてもらうなど和やかな雰囲気の中でゴールを目指していました。



農業経営改善計画認定書交付式 及び農業経営セミナー開催！

宮古島市担い手育成総合支援協議会が10月29日、市中央公民館において「農業経営改善計画認定書交付式」を行いました。今回、認定書を交付されたのは24名、農業経営をする個人と法人の方々です。

交付式が行われた後、農業経営セミナーが行われ、沖縄県農林水産部営農支援課の屋宜美智子氏が「簿記記帳による経営改善」と題して、良い生産物を作る生産技術、生産技術を計る計数管理、家族員が経営目標を共有化する運営管理の農家経営に必要な三本柱などを説明し魅力ある農業についての講話がありました。引き続き「税務対策から見た農業経営管理のあり方」について税理士の勝俣京子氏が講話しました。訪れた参加者は真剣な表情で各講師の話に聞き入っていました。



セイルイン宮古島杯 第2回全宮古角力大会を開催！

沖縄県角力協会宮古支部主催のセイルイン宮古島杯第2回全宮古角力大会が11月2日に、下地与那覇のサニツ浜公園内角力会場で開催されました。

この大会は、宮古角力の普及、振興と競技力の向上を図ることを目標として、沖縄県角力協会宮古支部が昨年より開催しています。

大会は、小学生から一般まで約80名が参加し、大人の白熱した決まり手やちびっこの元気な取組みで会場は大いに盛り上がりしました。



直はたから・・・!

「コスモスの花言葉に込めて・・・！」

街路樹のホウオウ木が鮮やかな朱色を放ち燃えるように花開く季節には心が躍ります。ところが、花も散ってしまえば落葉とともに歩道を汚してしまいます。

その落葉などを毎日、清掃している方たちがいます。清掃をしているのは、道路側から店舗を覗き込んでいる実物大の人形が目玉の不動産会社のみなさんです。

就業前に約30分かける清掃活動は、8年前に始まったといいます。きっかけは、お客様の要望に応えることができないときの自責の念に端を発し、自社が利用する店舗前の道路に感謝を込めるとした代表者の発案で行われるようになったとのこと。朝の清掃をすることで、仕事に反映する効果が多く見つかるといいます。

この活動が今では自分たちの成長につながっていると代表者は語る。また、「感謝」の花言葉を持つコスモスの種を近隣に配布してコスモス街道を作り華やかな道ばたを演出しています。花言葉は、清掃に加わっている隣の物産店の方が教えてくれたようです。警察署回りから大型書店の交差点までを清掃するこの活動は、近隣の人たちに波及し交流の輪も広がり、清掃活動はさまざまな効果をもたらし、人とひとの絆を深めることにもつながっているようです。

何気なく通り過ぎる道ばたにも、名もない花が咲くように誰かのあたたかい思いがひっそりと輝いています。

うまれがい！がまんがい！

宮古島の話題 [The Topics]

落葉一つ残っていない清掃後の歩道。コスモスも芽吹いている



幸運をもたらすマスコットが店舗をのぞいている



平成20年度地域人権啓発活動活性化事業

市民による人権啓発劇「この空を飛べたら」

ハンセン病をテーマにした人権啓発劇「この空を飛べたら」の公演が、10月26日マティダ市民劇場で行われました。主催したのは、宮古島市・宮古地区人権啓発活動地域ネットワーク協議会で、人権啓発活動の一環として催されたものです。同協議会は、宮古地区の人権啓発活動にかかる機関などが連帯、協力関係を確立し各種人権啓発活動を総合的かつ効果的に推進する目的として平成15年に発足しました。宮古地区では、多良間村と宮古島市で人権啓発活動活性化事業を進めています。今回は宮古島市が同事業を受託することになり、人権問題を演劇で表現することで市民に広く伝えようとするものです。

この人権啓発劇「この空を飛べたら」は、ハンセン病療養所入所者の体験を基に構成された内容で、公募した60人の出演者によって演じられました。

出演者らは学業や仕事の合間を抜いて5ヶ月間の稽古を経て本番にのぞきました。当日、会場の客席はすべて埋まるほどの盛況を博し、観客は素人とは思えない迫真の演技に惜しみない拍手を送り、人権への理解を深めていました。

憲兵に取り押さえられる迫真の演技！



ハンセン病の感染者と分かり差別を受ける！



主役とヒロイン（療養所で出会う）



学校の健康診断で感染が判明！



奉仕作業の名のもとで強制労働！



たまには家事の手伝いを。鬼（嫁）の居ぬ間に洗濯でも。…意味が違う？

(PN、恐妻家30代)

里帰りの小さなズボンの忘れ物。たたむばあばの尻尾はさがる。(PN、一筆娘)

「一筆物語」投稿者募集中です。